

コロンビア以外の中南米における日本人移民は、多くの研究がある。ここで扱うのは、あまり取り上げられないことのないコロンビアの日本人移民についてである。コロンビアには南部（エクアドルに近い方）と北部（カリブ海側）の二つの地域に日本人の移民が行われ、二つの地域には公式・非公式の「日系人会」が存在する。

### 2.1 コロンビア南部の日本移民

コロンビアの日本移民は、他の南米の国（ブラジル、ペルー、パラグアイ、アルゼンチンなど）に比べ、小規模で少数である。よく知られているのは南部のカウカ県やバージェデルカウカ県の農業移民である。これらは今まで研究されており、資料も少なからず存在する。現在でも多くの人々は、コロンビアの日系人とはカリ市やパルミラ市在住の人々のことだと言う。カリ市やパルミラ市の以前はカウカ県のコリント町が発祥である。そして日本人移民や日系人は「農業の専門家」として成功をおさめ、1951年に農業日本人会（S.A.J.A）が結成された。

#### \*日本人の移住計画

コロンビアへの移住計画は外務省が大正15年（1926）パナマ領事とペルー公使の要請により調査開始。その結果、昭和4年（1929）にカウカ県、コリント地区ハグアル町に土地を入手、日本人を派遣することになった。

第1次入植者：日本では、ブラジルへの移住が盛んであった時期で、海外興業会社が全国に募集をかけ、5家族25名が第1次移住者として渡航した。昭和4年（1929）10月7日横浜港発。11月16日ブエナビントゥラ港に到着、18日に入植した。

第2次入植者：前回の広範囲の募集から、3家族が応募した福岡県に絞り、その代理店を通じて、これ以降福岡県がコロンビア移住の中心派遣地域となる。第2次入植者は5家族34名（後に田中正男氏の弟隆義が合流）が、昭和5年（1930）3月14日横浜港発、4月20日ブエナビントゥラ港着、21日移住地到着。

第3次入植者：昭和10年（1935）9月22日に横浜港発、10月26日にブエナビントゥラ着、10家族100名だが、形式結婚や形式養子縁組、合成家族があり、入植後4家族が独立した。14家族と歴史書には記されている。

第1次から第3次まで合計164名がコロンビアに移住したことになる。家族数では合計24家族である。そのうち何家族かは、ブラジルに行くつもりがコロンビアになったと記録されている<sup>(1)</sup>。

#### \*日系人協会の存在と機能

日系人協会は今年（2019年）10月19日に移住90年記念の祭典を行う予定である。かつて同協会の方向性を決める際、ある移民二世が興味深いことを述べた。「私たち日系人は日本人の親を持つが、どこまで日本の事を知っているかわからない。日本語も出来ないし、習慣もわからない。私の妻は日本人ではない。日本人であることの長所は何なのだろうか。そういう意味で日系人協会の存在が極めて重要なのです。」

#### \*現在の日系人協会の機能と活動

現在、同協会は主に二つの機能をもっている。一つは日本文化行事を通して日系人が集まり、絆を深め合うことである。例えば、敬老会（毎年6月頃）、運動会（毎年8月頃）、天皇誕生日（会員祭、毎年12月）である。この三つの行事はほぼ会員限定である。

会員は日系人協会に年会費を納める日系人に限られている。

もう一つは日本文化の普及である。例えば、日本語教育、武道、漫画（コミック）、カラオケ指導などの催しなどである。日本語教育は日系人の子弟も参加しているが、ほとんどがコロンビア人の生徒で、教師も日本で日本語を学んだコロンビア人と日系人である。この日本語教育については天理教コロンビア出張所が初期に貢献をしている。その経緯は次の通り。

#### 1. コロンビア出張所の文化活動経緯

(ア) 日系人協会の日本語学校を援助する成人向け日本語教室が昭和52年（1977）に信者宅を教室にして出発。その後、市内の学園などを経緯して、海外布教伝道部より「文化活動助成費」が承認され、昭和63年（1988）5月、市内に「天理国際文化センター」が立ち上がった。太田哲三著『コロンビアの日々』には、「この『天理国際文化センター』は、日本語だけでなく、陶芸教室、ひかり園（日系人協会の日本語幼少コース）の夏期集中講座、果ては、日系人会の役員の間所ともなり、色々な面に利用され、喜ばれた<sup>(2)</sup>。」とある。

(イ) 出張所理事の手で運営された独自の文化施設「天理国際文化センター」は1年半で閉鎖、その後理事のメンバーのほとんどが日系人協会の役員であり、文化活動の担当をしていたので、日系人協会へ統合、協力することに。後日、日系人協会の「日コ交流会館」が設立された。そのスタッフの多くが天理教コロンビア出張所関係者であった。

(ウ) コロンビア出張所では、コロンビア人信者の増加により、平成2年（1990）12月より少年会活動の一環として日本語教室が開講された。ちょうど私たち夫婦がコロンビアに所員として赴任したころである。太田は、「本部より派遣の清水美世子、山口悟、岡本孝雄の他、原澤初枝も協力。13名から始めたこの講座も現在（おそらく1988～1989ころ）成人を含め約30名が学習している<sup>(3)</sup>」と述べている。

(エ) 私がコロンビア出張所員として赴任した頃（1988年11月～1994年12月）、理事（出張所の役員）や古い信者の子弟を集めて、十数名の鼓笛隊を再結成し、日本語教育にも携わった記憶がある。

(オ) 日本人移民の継承として、当初コロンビア出張所関係者が講師や場所を提供して文化活動を推進してきたが、その際「においがけ・おたすけ」の場として、天理関係の文化活動は始まったように考えられる。

#### 2. 現在の様子

現在は北部、南部と二カ所の日系人協会文化施設があり、日本語教育は言うまでもなく、武道についても柔道、剣道、空手道、合気道の授業を提供。指導者はすべてコロンビア人もしくは日系人である。

[注]

- (1) コロンビア日系人協会移住50年史編集委員会編『コロンビア移住史 五十年の歩み』コロンビア日系人協会移住50年史編集委員会、1981年、33頁。
- (2) 太田哲三『コロンビアの日々』天理大学おやさと研究所、1998年、145頁。
- (3) 同書、147頁。